

「五福堂新潟村歌」

作詞・作曲…松村義人

腕をふるうって草刈る鎌に
伸びる祖国の光がこもる
大和桜にあの撫子に
蘭の花咲く大満洲の
広い 沃土を耕せ 拓け。

手綱とる手に 拓士の肩に
伸びる 皇国（みくに）の興廃かけて
雪の新潟故郷（こきょう）をあとに
神に誓って国策線に
踊る 我等の使命は重い。

腕をふるうって 命をかけて
伸ばせ我家を部落を 村を
村の栄えは 皇国（みくに）の繁え（さかえ）
五族協和の満洲の栄え
永久に 繁栄（さか）えよ 我 五福堂

腕をふるうって打ち込む鋤に
伸びる祖国の力がこもる
朝の朝露 タの夜露
星をいただき月影ふんで
匂う 大地を耕せ 拓け。

《五福堂開拓団 昭和 12 年入植 ソ連国境北安

◆ 団長：堀 忠雄

1910 年(明治 43～平成 15)2003 年。
山形県酒田市生まれ。実家は名家、父熊太郎
は県議会議員、信頼あつかった。

1930 年東大農学部合格。農政学者：加藤
完治の指導を受け、「農業こそ国の基い、農
業なくして国の栄はなし」の信念を持つ。

1934（昭和 9 年）渡満。農業訓練所の校
長に（25 歳）。「満人」の師弟と寝食を共に
する中で満人を理解する。大匪賊：趙高志に
「日本人は殺せ、ただし、堀所長は殺すな」
と、いうほどの信頼を勝ち得ていた。

◆ 五福堂開拓団（全員帰国した）1946 年帰国 未墾の土地に入植。既墾地は現地人に耕作を 認め、現地人と良好な関係を築く。

「唄う村にしよう、歌う村を創ろう、踊る
拓士と共に人生の歓喜を配ち合おう。その中
から新しい歴史を軌（か）き続けてゆきたい」
と。開拓団は、現地人に小作料を払い既墾地
の取上げはしなかった。

敗戦時、「断固生き抜くべし」の方針で、
開拓団を守り抜いた堀団長。開拓団を去ると
きは、現地人に見送りされた、という。

「五福堂新潟村音頭」

作詞・作曲…松村義人

雪のふるさと あの新潟の
人情深さに この満洲を
花を咲かせて 実らせましようよ。

せまい内地に 夢にもないが
畑ひろびろ 一うね一里
ほんにのびのび 喜しましようよ。

何が寒かる 雪国育ち
ペチ力温突（おんつき） じつたつもかけて
橋（はし）で行きましようよ。
飛ばせましようよ。

お国自慢の新潟美人
おけさ 三階節 あのだ踊り
さあさ 輪になれ 踊りましようよ。

